



1



2



4



3

1 どぶろくの瓶に付ける飾りを作る生きがいサービス利用者。楽しみながら活動に参加する。2 完成品。3 低たんぱく米の稲刈り後。組合員と有志。4 どぶろくの包装作業を行う芝代表理事(右)と程内伸吾さん(左)。程内さんは組合員ではないが、活動に興味を持っており休日を利用して作業を手伝っている。

活性化を通じた 地域とのつながり

どぶろくの製造から販売までこぎつけた組合
真の目的はどぶろくを通じた「地域活性化」
どぶろくが鬼北のスタンダードになることを目指し
企業組合ひろみ川の活動が始まる

地域ぐるみの活動

どぶろくの製造は、瓶詰めから梱包、飾り付けまで全てが人力。そのため、時間も人手も必要。

組合は製造過程において、自分たちだけでの活動にとどまらず、地域の人の力を取り入れています。

瓶詰めや梱包作業は、地元でどぶろくに興味がある有志に声をかけ、積極的に活動に参加してもらっています。

また、商品の飾り付けには、社会福祉協議会や農協を通じ、生きがいサービス利用者などに参加を依頼しています。

活動に参加している人たちは組合員ではなくても、自分の興味や趣味を楽しみながら、地域活性化に参加しています。また組合も、さまざまな人と共同で作業を行うことで、自分たちの活力につながり、一石二鳥なのです。

このような活動も組合の重要な目的の一つ。

ただ製造・販売を繰り返すだけでなく、地域の人と共に楽しく作業をする。みんなに興味を持ってもらう。共に地域活性化をしようという努力を惜しみません。